



平成 28 年 9 月 20 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 U M N フ ェ ー マ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 平 野 達 義
(コード番号：4585 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 財 務 部 長 橋 本 裕 之
電 話 0 4 5 - 5 9 5 - 9 8 4 0

組換えノロウイルス VLP+組換えロタウイルス VP6 混合ワクチンの独占的事業化権に関するライセンス契約から組換えノロウイルス VLP 単独ワクチンに関する非独占事業化権に関するライセンス契約への移行のお知らせ

2016年9月19日、当社は、2012年1月23日に締結したフィンランド・タンペレ大学ワクチン研究センターのティモ・ヴェシカリ教授、ヴェスナ・ブラゼヴィッチ博士との組換えノロウイルス VLP+組換えロタウイルス VP6 混合ワクチン（当社開発コード：「UMN-2003」）の全世界における独占的事業化権に関するライセンス契約について、組換えノロウイルス VLP 単独ワクチン（当社開発コード：「UMN-2002」）に関する非独占事業化権に関するライセンス契約に移行することで合意いたしましたのでお知らせいたします。

ノロウイルスとロタウイルスはともにウイルス性胃腸炎の主な原因とされています。当社におきまして、2012年1月23日契約締結以降、バイオ医薬次世代プラットフォームである Baculovirus Expression Vector System (BEVS) を用いて、ノロウイルス・ロタウイルス双方を同時に予防できるワクチン開発、ならびに単独でのワクチン開発の可能性を検討してまいりました。その後、2014年2月14日に、第一三共株式会社と UMN-2002 に関する共同研究契約を締結し、各種基礎検討を推進しており、現状では UMN-2002 の開発が先行しております。

今般、組換えノロウイルス VLP+組換えロタウイルス VP6 混合ワクチンの推進を優先的に進めたいヴェシカリ教授側からの要請により、当社として UMN-2003 の事業性・実現可能性等をあらためて検討した結果、UMN-2002 に優先的に経営資源を集中することが、UMN-0502 に加えて自社開発パイプラインを拡充するという中期経営計画の実現に資すると判断いたしました。

今回締結の組換えノロウイルス VLP 単独ワクチンに関するライセンス契約においては、UMN-2002 を優先的に推進していくという考えのもと、これまでの組換えノロウイルス VLP+組換えロタウイルス VP6 混合ワクチンに関するライセンス契約を通して得られた知見やノウハウを、引き続き当社が活用できることが明記されています。従いまして、当社における UMN-2002 の開発及び事業化に影響はございません。今後ともティモ・ヴェシカリ教授、ヴェスナ・ブラゼヴィッチ博士との良好な関係を維持しながら、UMN-2002 の開発及び事業化を進めてまいります。

なお、本変更契約締結による当社グループの当期の連結業績に与える影響はございません。

以上

(ご参考)

ティモ・ヴェシカリ教授の略歴

ティモ・ヴェシカリ教授はタンペレ大学医学部ウイルス学部門の教授で、ワクチン研究センター長及びタンペレ大学病院の小児感染症科診療科長を兼任しています。1969年にヘルシンキ大学医学部卒業、1972-1975年ニューヨークのベルビュー病院及びブルーズベルト病院にて研究に従事、1981-1987年タンペレ大学小児科教授等複数の要職を歴任しました。ヴェシカリ教授は1982-1983年世界初のロタウイルス経口生ワクチンの臨床研究に従事、Rotarix® (GSK) の治験責任医師や RotaTeq® (Merck) の治験 REST の治験総括医師を担当しました。上記2つの治験をまとめた2006年の報告は、著名な医学雑誌である The Lancet 誌の“Paper of the Year in 2007”を受賞しています。近年はノロウイルスとロタウイルス混合ワクチンの研究に精力的に取り組んでいます。

ヴェスナ・ブラゼヴィッチ博士の略歴

ヴェスナ・ブラゼヴィッチ博士はタンペレ大学医学部にて免疫学の博士号を取得後、1997-2000年米国国立衛生研究所(NIH)にてHIV感染症における免疫調節異常や細胞性免疫応答の基礎研究に従事、近年はFIT Biotech社で科学技術部門長としてHIVに対するDNAワクチンの開発に携わりました。ウイルス学やワクチン免疫学を専門としており、非臨床試験及び臨床試験におけるワクチンの免疫原性や有効性の評価を数多く担当しています。2009年からタンペレ大学ワクチン研究センターの研究室長を務めています。